(2)　国語科

①　教科の目標

ア　目標

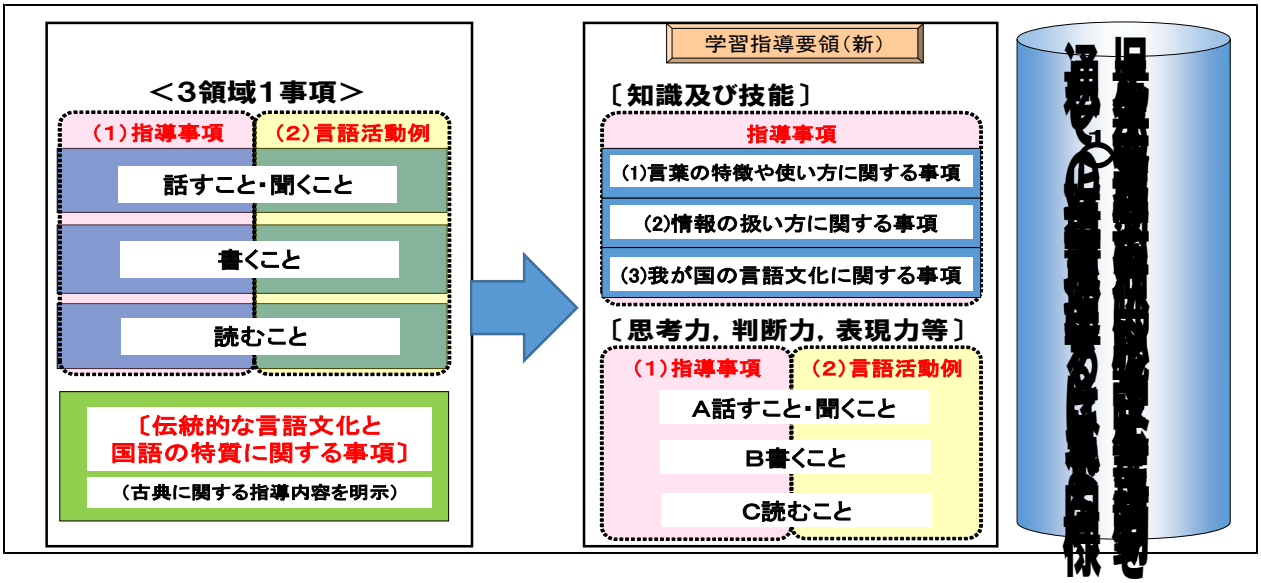
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

イ　言葉による見方・考え方を働かせ

・国語科は，言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものが学習対象。
・生徒が学習の中で、対象と言葉，言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

②　内容構成の改善

ア　改善の方向性



イ　内容の移行等

小学校

平成３０年度の第４学年、平成３１年度の第４学年及び第５学年に国語の指導に当たっては、新学習指導要領の学年別漢字配当表に配当されている漢字により指導する。

〇第４学年　都道府県名に用いる漢字２０字を加える。

〇第４～６学年は，配当漢字及び字数を変更

	現行	新	
第4学年	200字	202字	茨，媛，岡，潟，岐，熊，香，佐，埼，崎，滋，鹿，縄，井，沖，栃，奈，梨，阪，阜 賀，群，徳，富（5年から），城（6年から）
第5学年	185字	193字	囲，紀，喜，救，型，航，告，殺，士，史，象，賞，貯，停，堂，得，毒，費，粉，脈，歴（4年から）
第6学年	181字	191字	胃，腸（4年から） 恩，券，承，舌，銭，退，敵，俵，預（5年から）

中学校

平成３１年度の第１学年，平成３２年度の第１学年，第２学年で学習する漢字に追加して指導する。

【都道府県名に用いる漢字の読みと書き（２０字）】

茨，媛，岡，潟，岐，熊，香，佐，埼，崎，滋，鹿，縄，井，沖，栃，奈，梨，阪，阜

③　授業改善のポイント「主体的・対話的で深い学び」

ア　主体的な学びの視点

◇　学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習場面を計画的に設ける。

◇　実社会や実生活との関わりを重視した学習活動として、子どもたちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり、自己の在り方・生き方に関わる課題を設定したりする。

◇　学習を振り返る際、子ども自身が自分の学びや変容を見取り、自分の学びを自覚することができ、説明したり評価したりすることができるようにする。

※　自明のことですが、「主体的な学び」とは、「任せっぱなしで学ばせること」ではありません。その実現には、子どもたちが課題を受け止め、自ら進んで、前向きに取り組んでいくことが求められます。

イ　対話的な学びの視点

◇　子ども同士、子どもと教職員、子どもと地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり、議論したり、協働したりする。

◇　本を通して、作者の考えにふれ、自分の考えに生かす。

◇　互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設ける。

※　「本を通して」は、もちろん作者の考えに触れることになりますが、そこから派生して、作者の語彙と対話することにもなり、更には、自らの「内言」とも対話することにもなり、自らの語彙とも対話をし、磨きをかけることにもなります。

ウ　深い学びの視点

◇　「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設ける。

◇　子ども自身が自分の思考の過程をたどり、自分が理解したり表現したりした言葉を、創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面からどのようにとらえたのかを問い直して、理解し直したり、表現し直したりしながら思いや考えを深めるようにする。

※これまでは学習したことをなぞるだけの作業として「復習」があったかもしれません。未習事項が既習事項へとつながったかどうかだけを確かめる教師主体の時間であったと言い換えてもよいでしょう。「振り返り」はそうではありません。子ども自身が自分の「思考の過程をたどり」、「問い直す」場です。